JASIS 2023

The 35th Annual conference of Japan society for interior studies
in Tokai （Nagoya Institute of Technology）

大会プログラム

INTERIOR TOKAI
2023

日本インテリア学会　第 35 回大会（東海）
2023 年 10 月 28 日（土）・29（日）
名古屋工業大学

ご挨拶

日本インテリア学会
第 35 回大会（東海）
大会長

河辺　伸二

（名古屋工業大学／
学長特別補佐）

このたびは、日本インテリア学会第35回大会（東海）を名古屋工業大学で開催させていただくこととなり、誠に光栄と存じます。東海支部での大会は、第3回大会（於：名古屋工業大学）、第19回大会（於：博物館明治村）、第28回大会（於：名古屋工業大学）と、過去3回開催されました。今回7年ぶりの名古屋工業大学での開催にあたりまして、大会長としてご挨拶を申し上げます。

名古屋工業大学は、明治38年（1905）創立の名古屋高等工業学校に始まります。東京、大阪、京都についで設置された、4番目の官立の高等工業学校です。建築に関しては、当時、官立の建築科は、東京帝国大学と名古屋高等工業学校の二校のみでした。第二次世界大戦後の昭和24年（1949）に、新制名古屋工業大学が発足しました。建築科は、時代とともに、建築学科、社会開発工学科、社会工学科など学科名が変わり、現在は、社会工学科、建築・デザイン分野となっています。

さて、今回の大会は、中井孝幸東海支部長（愛知工業大学教授）が実行委員長となり、10月28日（土）、29日（日）の2日間で開催いたします。昨年まで新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインの大会でしたが、今回はすべての日程を対面で開催することといたしました。

10月28日（土）は、見学会と研究交流懇親会を開催します。見学会は、桑名駅より徒歩15分程度にあります諸戸家住宅［西諸戸］、六華苑［東諸戸］で開催いたします。諸戸家住宅（諸戸氏庭園）は、米取引、海運業、田地や山林の経営等で資産を築いた初代諸戸清六が、明治17年（1884）、居宅兼事務所を建設したものです。重要文化財の主屋、玄関及び座敷、表門、広間、洋館、玉突場や、煉瓦蔵、煉瓦塀、茶室推敲亭などがあります。庭園は春と秋に一般公開されています。明治39年（1906）初代清六死去後、諸戸家は次男・精太の［西諸戸］と、二代目清六を襲名した四男・清吾の［東諸戸］に分かれました。六華苑は、大正2年（1913）に二代目諸戸清六の新居として建設されたものです。現在は桑名市所有となっています。洋館、和館、長屋門、土蔵などの建物があります。洋館は、鹿鳴館設計の建築家ジョサイア・コンドルによるものです。奮って見学会にご参加ください。

10月29日（日）は、研究発表会、記念講演会を名古屋工業大学にて開催いたします。研究発表会は、名古屋工業大学内の教室にて開催します。記念講演会は、井澤知旦氏（都市研究所スペーシア顧問）に、お話しいただきます。卒業作品展は、日本インテリア学会ホームページにて公開予定です。

以上の企画で、大会が開催されます。インテリアに関する最新の情報の発信と共有を通して、参加された皆様にとりまして有意義で実り多い大会になりますよう願っています。最後に、日本インテリア学会の皆様の益々のご活躍と、日本インテリア学会の発展を祈願して、ご挨拶といたします。

日本インテリア学会第35回大会(東海)実行委員会

大会長	河辺　伸二　（名古屋工業大学）
実行委員長	中井　孝幸　（愛知工業大学）
副実行委員長	河田　克博　（名古屋工業大学名誉教授）
実行委員	秋田　美穂、石黒　嘉緒恵、大嶋　浩、金田　美世、河田　利香
	北川　啓介、坂口　大史、清水　隆宏、高木　清江、高橋　敏郎
	武田　美恵、夏目　欣昇、野澤　英希、橋本　雅好、原　眞佐実
	藤田　淑子、牧野　利華、松本　佳津、溝口　周子、村井　裕樹

大会事務局　愛知工業大学工学部建築学科清水研究室（2023jasis@gmail.com / 担当：清水）

日本インテリア学会第 35 回大会（東海）スケジュール

<table>
<tr><td colspan="4">1 日目／10 月 28 日（土）</td></tr>
<tr><td>12:30～</td><td colspan="3">見学会 受付開始　＜場所＞諸戸氏庭園入口・主屋玄関前　（桑名駅より徒歩約 15 分）</td></tr>
<tr><td>13:00～17:00</td><td colspan="3">■見学会　（共催：歴史部会）
見学場所：諸戸家住宅［西諸戸］、六華苑［東諸戸］（三重県桑名市）
集合場所：諸戸氏庭園入口・主屋玄関前</td></tr>
<tr><td>18:00～</td><td colspan="3">研究交流懇親会 受付開始</td></tr>
<tr><td>18:30～20:30</td><td colspan="3">■研究交流懇親会
Arcoba（アルコバ）（名古屋市中区丸の内 3-19-14 RAYARD Hisaya-odori Park）
アクセス：名古屋市営地下鉄［久屋大通駅］2A 出口（A エレベーター）徒歩 1 分</td></tr>
<tr><td colspan="4">2 日目／10 月 29 日（日）</td></tr>
<tr><td>9:00～</td><td colspan="3">受付開始　＜場所＞名古屋工業大学 2 号館 1 階</td></tr>
<tr><td>9:30～9:45</td><td colspan="3">■開会式　＜場所＞2 号館 1 階 0211 室</td></tr>
<tr><td>10:00～12:05</td><td colspan="3">■論文発表・第 1 部　＜場所＞2 号館 2 階 0221 室・0222 室・0223 室</td></tr>
<tr><td></td><td>0221 会場</td><td>0222 会場</td><td>0223 会場</td></tr>
<tr><td>10:00～11:00</td><td>住宅（１）</td><td>歴史（１）</td><td>人間工学・家具</td></tr>
<tr><td>11:05～12:05</td><td>住宅（２）</td><td>歴史（２）</td><td>環境</td></tr>
<tr><td>12:05～13:30</td><td colspan="3">■昼食　　＜場所＞1 階 0212 室（他、2 階の各論文発表会場でも可）
■理事会　＜場所＞1 階 0211 室</td></tr>
<tr><td>13:30～14:30</td><td colspan="3">■論文発表・第 2 部　＜場所＞2 号館 2 階 0221 室・0222 室・0223 室</td></tr>
<tr><td></td><td>0221 会場</td><td>0222 会場</td><td>0223 会場</td></tr>
<tr><td>13:30～14:30</td><td>住宅（３）</td><td>教育</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>14:45～16:15</td><td colspan="3">■記念講演会　井澤 知旦（都市研究所スペーシア顧問）
「インテリアと公共空間の新たな関係性を探る－公共空間に滲み出るインテリアからの考察－」
＜場所＞2 号館 1 階 0211 室</td></tr>
<tr><td>16:30～17:30</td><td colspan="3">■閉会式・表彰式　＜場所＞2 号館 1 階 0211 室</td></tr>
</table>

研究発表要領

A 論文発表部門

1）発表時間：9 分、質疑応答：3 分、計 12 分です。
1 鈴 8 分、2 鈴を 9 分（発表終了）、3 鈴を 12 分（質疑終了）とします。

2）発表方法は、すべて口頭発表とします。

3）次発表者は、発表会場前方の次発表者席に、ご着席下さい。

4）会場にはプロジェクター、マイクを実行委員会が用意しますが、発表用のパソコンはご自身で持参して下さい。プロジェクターへの接続が可能かどうか、事前にご確認下さい。万が一に備え、できるだけ、発表用データの入った USB メモリーをご持参下さい。
Mac の方は、プロジェクターとの接続ケーブルをご用意下さい。

5）パソコン操作は発表者側でお願いします。

B パネル（作品）発表部門

今大会では、パネル（作品）発表者はいません。

その他

1）会場では参加票を必ずご着用下さい。

2）荷物は大型のもの以外は各自でお持ち下さい。大型のものは実行委員会の指定した保管場所をご利用下さい。貴重品の管理は各自でお願いします。

3）見学会会場は、文化財保護の観点から建物内及び敷地内全面禁煙及び飲食禁止とします。
研究発表会場の名古屋工業大学では、館内及びキャンパス内は全面禁煙となっています。

4）名古屋工業大学内では eduroam 対応アクセスポイントが稼働しており、学外研究者が利用できる無線 LAN 環境が整備されています。設定方法・使用方法については、事前に各所属機関等で提供されているマニュアル等にてご確認下さい。

発表プログラム　0221 会場

【　住宅（１）　】　　10：00～10：48　　座長：山田 智彦

001　空き家カルテに関する研究
大分県竹田市居住支援協議会における空き家調査
近藤 正一（日本文理大学）・福田 健・野村 明日香

002　子ども巣立ち後の子ども部屋活用に関する調査
― 子ども巣立ち後の子ども部屋の片付け状況に着目して ―
瀬戸 千裕（積水ハウス）・平岡 千穂・慎 彩実・近藤 雅之

003　在宅ワークスペースの実態調査 その 3
建物規模による場所選択の違い　　松本 吉彦（旭化成ホームズ）・高村 舞

004　在宅ワークスペースの実態調査 その 4
定着期におけるワークスペースへの要望　　高村 舞（旭化成ホームズ）・松本 吉彦

【　住宅（２）　】　　11：05～12：05　　座長：近藤 正一

005　自宅における防災に関する調査（その 2）
自宅での防災に関するコロナ禍の影響と在宅避難ニーズについての考察
平岡 千穂（積水ハウス）・慎 彩実・近藤 雅之・沢辺 泰代

006　家庭内におけるコロナ禍前後の調理・買い物行動の変化
男女の調理頻度の差異からみる調理空間に関する課題
慎 彩実（積水ハウス）・瀬戸 千裕・平岡 千穂・近藤 雅之

007　リノベーション時における台所と女性の働き方の関係
仙台市と近郊都市の戸建て住宅の事例を通して　　米島 一朗（土屋ホームトピア）

008　簡易応急仮設住宅の設計・制作
小川 和彦（千葉職業能力開発短期大学校）

009　住宅の玄関における濡れた雨具の置き方に関する実態
近藤 雅之（積水ハウス）・瀬戸 千裕・慎 彩実・平岡 千穂

【　住宅（３）　】　　13：30～14：06　　座長：小川 和彦

010　九龍城の空間構成と生活の実態
LEE NGO（文化学園大学大学院）・渡邉 秀俊

011　日本統治時代における台湾伝統住宅の「和室」の配置と使用状況に関する調査研究
郭 雅雯（京都光華女子大学短期大学部）

012　都市居住街区内部の立面にある情景エレメントの実態調査に関する研究
東京都文京区本郷の都市居住街区のフィールドサーヴェイを事例とした場合
山田 智彦（東京都市大学大学院）・高柳 英明・末繁 雄一

【　歴史（１）　】　　10：00〜11：00　　座長：高橋 敏郎

013　インテリア分野黎明期におけるオーラルヒストリー調査
　　〜 関西の視点から考える 〜
　　中村 孝之（生活空間研究室）・井上 徹・来海 素存・片山 勢津子

014　尼崎市立浦風小学校の竣工までの経緯と実用性
　　船曳 悦子（大阪産業大学）・西村 豪

015　K 邸に関する研究　その 1
　　建築的特徴について　　白木 ひかる（京都女子大学）・片山 勢津子

016　K 邸に関する研究　その 2
　　使用家具とその配置について　　片山 勢津子（京都女子大学）・白木 ひかる

017　揖斐川町光永寺本堂に関する研究
　　− 内田仙司が遺した建築図面と現存遺構の比較 −
　　渡邊 凜（岐阜工業高等専門学校 専攻科）・清水 隆宏

【　歴史（２）　】　　11：05〜11：53　　座長：船曳 悦子

018　ヨーゼフ・フランクのテキスタイルデザイン
　　ヨーゼフ・フランクの生涯を彩ったテキスタイルデザイン(2)　　八代 美智子（名古屋造形大学）

019　コロマン・モーザーとヨーゼフ・ホフマンの椅子デザイン［1］
　　− デザインの源泉と影響 −　　川崎 弘美（川崎ブランドデザイン）

020　Sitzmaschine と LC4 の比較
　　− 「機械」と「心地よさ」を視点として −　　黒田 智子（武庫川女子大学）

021　スペイン・カタルーニャのロマネスク教会（その 3）
　　アラン谷のロマネスク教会（その 3）　　高橋 敏郎（カルチベート）

【　　教育　　】　　13：30〜14：18　　座長：清水 隆宏

023　小学校に設置されたテラスにおける児童の活動や授業の展開の可能性
　　正岡 さち（島根大学）・佐々木 結香

024　空き家の利活用に向けた地域連携型授業の取り組み
　　大分県竹田市城下町地区を対象として　　福田 健（日本文理大学）・江越 充・近藤 正一

025　インテリア・建築分野の資格の製図試験における高さ表記方法の比較
　　インテリア・建築分野における製図通則のあり方に関する研究 その 2
　　江川 香奈（東京電機大学）・岩井 一幸・大崎 淳史・奥田 宗幸
　　・金子 裕行・川島 平七郎・河村 容治・長山 洋子

026　インテリアプランニングにおけるムードボードについて（その 2）
　　− イギリスのインテリア業界の現状と動向調査から −
　　安藤 眞代（日本インテリアデザイナー協会）・酒井 浩司

発表プログラム　0223 会場

【人間工学・家具】　10：00〜10：36　座長：井澤 幸

026　押し入れ改修型の浴槽レス浴室の被験者実験に向けた検討
－ 浴槽レス浴室のバリアフリーに関する研究 その 3 －
津留﨑 聖斗（筑波大学大学院）・布田 健

027　インテリア空間のユニバーサルデザインの推移の考察 7
住まいのインテリア空間をユニバーサルデザインの視点で調査・分析 7
植松 曄子（AP〜N（あぷ〜ん））

028　室の広さと家具選択の関係
片岡 美里（和歌山大学大学院）

【　環境　】　11：05〜11：53　座長：正岡 さち

029　駅ホーム上の不安感に影響する物理的要因に関する調査
横山 純和（文化学園大学大学院）・高橋 正樹

030　自然と共生するワークプレイスに関する研究
－ 公園で働く Uber Workplace の提案 －　李 蘭昕（文化学園大学大学院）・高橋 正樹

031　尾道市吉和の漁師の生業における家船での居住空間についての研究
石地 菜月（広島工業大学）・平田 圭子

032　カフェを想定した照明位置と会話の緊張感の関係の検討
江越 充（日本文理大学）

【　その他　】　13：30〜14：30　座長：江越 充

033　「デザイン新常態」一連の暮らしを考えるイベントを終えて
－ インテリアデザイン啓蒙・啓発活動の事業報告と考察(その 3) －
酒井 浩司（日本インテリアデザイナー協会）・安藤 眞代・井ノ阪 智恵・位田 達哉・来海 素存

034　産後ケア施設における利用状況と空間構成の基礎的研究
産後ケア独自施設の事例調査から　井澤 幸（椙山女学園大学）

035　VR 空間における空間デザイン評価の実験的検討
－ バーチャルショップを対象として －　井本 智佳子（大阪産業大学）・ペリー 史子

036　育児休暇期間中のテレワークなどの働く場についての研究
森﨑 華凡（広島工業大学）・平田 圭子

037　開かれた庁舎建築に関する研究
－ 半屋外空間の変容 －　吉澤 伊代（日本大学大学院）・市岡 綾子

記念講演

場　所　：名古屋工業大学 2 号館 1 階 0211 室
時　間　：2023 年 10 月 29 日（日）　14：45～16：15
テーマ　：インテリアと公共空間の新たな関係性を探る
　　－公共空間に滲み出るインテリアからの考察－
講　師：井澤 知旦（名古屋学院大学名誉教授／都市研究所スペーシア顧問、
　　博士（工学）、技術士（建設部門）、一級建築士）
略　歴：1952 年　大阪市に生まれる
　　1978 年　名古屋工業大学大学院修士課程 建築学専攻 修了
　　同　年　民間シンクタンク　入所
　　1990 年　（株）都市研究所スペーシア　設立　代表取締役設立（現在は顧問）
　　2012 年　名古屋学院大学　教授
　　2023 年　名古屋学院大学　名誉教授

主な著作：

「名古屋都市・空間論-消毒された都市から物語が生まれる都市へ-」（単著/2023）
「ウィズコロナ下における欧米諸都市の公共空間等の利活用に関する調査研究」（単著/2023）
「ストック・シェアリング試論-蓄積された地域資源の共有による新たな価値を生み出す地域コミュニティ形成－」（単著/2023）
「よみがえるダウンタウン　アメリカ都市再生の歩み」（共訳/1992）　他

社会活動：

認定 NPO 法人　たすけあい名古屋　副代表理事（同　福祉まちづくり総合研究所　所長）福祉系
認定 NPO 法人　中部リサイクル運動市民の会　理事　環境系
NPO 法人　かきつ畑　理事　農業系　　白壁アカデミア　共同代表理事　文化系
ものづくり文化の道推進協議会　会長　観光系

講演概要：

欧米では屋内から公共空間への活動の滲み出しを積極的に受け止め、カフェテラスやパークレット、ストリートライブラリーなどを日常生活の一環として展開している。コロナ禍のもとではそれらは一層顕著になった。また、これからの経済活動を牽引する、いわゆるクリエイティブ・クラスの人々はアウトドアライフや居場所づくりへの参画を求めている。名古屋でも戦災復興事業により、屋内外の中間領域である路地空間を徹底してなくしたが、それに代わって多くの公共空間が生み出された。欧米を参考にしながら、この公共空間をインテリアとの関係性からどのように位置付け、活用するのかを考えていきたい。

コペンハーゲン　運河沿いのカフェ

ヘルシンキ　ビルの谷間のカフェ

パリ　駐車場活用カフェテラス

見学会

日本インテリア学会歴史部会共催

見学場所：１．諸戸家住宅［西諸戸］（三重県桑名市太一丸 18 番地）
　　２．六華苑［東諸戸］（三重県桑名市大字桑名 663-5）
開催日時：2023 年 10 月 28 日（土）13：00～17：00
テーマ：「諸戸家の建築を巡る　―諸戸家住宅・主屋洋室、修復ステンドグラスを中心に―」
講　師：金田 美世（博士（工学）、ステンドグラス工房我羅）

今年度の見学会は 4 年ぶりに対面での通常開催となります。参加者の皆様に実際の建築・インテリアをご覧いただけることをとても嬉しく思います。今回は、三重県桑名市の近代化・発展に多大な貢献を果たした諸戸家の建物群を見学いたします。

初代諸戸清六（1846-1906）は、米穀業、山林業、廻船業等で財を成す一方、桑名町が断念した上水道を多額の私財を投じて自家用水道として完成させ、これを無償で市民に提供するなど地域の発展にも貢献しました。江戸時代に桑名を代表する商人であった山田家の屋敷を購入した清六が、敷地内に居宅兼事務所として建設したものが諸戸家住宅（西諸戸）です。見学会では、国指定重要文化財の主屋（主体部：明治 22 年、伴松軒：明治 43 年、洋室：大正 5 年以前）、表門（明治時代）、玄関及び座敷（明治 28 年頃）、広間（明治 24 年上棟）を中心に、洋館（明治 30 年頃）、玉突場（大正 14 年～昭和 5 年）、庭内の推敲亭（江戸時代）など、通常非公開部分を多く含む建物・室内をご覧いただきます。特に鈴木禎次設計の主屋洋室では、修復・復元を終えたばかりのステンドグラスを特別に室内から鑑賞します。

初代清六の死後、二男清太が継いだ諸戸宗家の北側隣地に、二代目諸戸清六を襲名した四男清吾（1888-1969）が結婚後の新居として建設したものが旧諸戸清六邸（現 六華苑、東諸戸）です。いずれも国指定重要文化財の和館（大正元年）、洋館（大正 2 年、ジョサイア・コンドル設計）が、南側の庭に面して直線的に接続する外観、洋館内部の襖の使用など、和洋折衷の意匠が見られます。敷地内には他に蔵などが残されており、通常公開の範囲で自由に見学していただきます。

諸戸家住宅主屋　外観

旧諸戸清六邸洋館　外観

第 30 回卒業作品展 出展教育機関

ホームページにて公開（2023 年 10 月 28 日～2024 年 1 月 21 日）

学校名 五十音順

大学 1　愛知淑徳大学
大学 2　大阪産業大学
大学 3　大阪成蹊大学
大学 4　岡山県立大学
大学 5　金城学院大学
大学 6　京都女子大学
大学 7　京都橘大学
大学 8　共立女子大学
大学 9　神戸松蔭女子学院大学
大学 10　駒沢女子大学
大学 11　札幌市立大学
大学 12　芝浦工業大学（建築）
大学 13　芝浦工業大学（システム理工）
大学 14　昭和女子大学
大学 15　女子美術大学
大学 16　椙山女学園大学
大学 17　成安造形大学
大学 18　拓殖大学
大学 19　帝塚山大学
大学 20　東京藝術大学
大学 21　東京造形大学
大学 22　東京電機大学
大学 23　東京理科大学
大学 24　名古屋芸術大学
大学 25　名古屋工業大学
大学 26　名古屋造形大学
大学 27　日本大学（工学）
大学 28　日本大学（芸術）
大学 29　日本文理大学
大学 30　広島工業大学
大学 31　広島女学院大学
大学 32　広島大学
大学 33　福井工業大学
大学 34　文化学園大学
大学 35　宮城大学
大学 36　武庫川女子大学
大学 37　武蔵野大学

短大 1　島根職業能力開発短期大学校
短大 2　千葉職業能力開発短期大学校
短大 3　日本大学 短期大学部

専門 1　ICS カレッジオブアーツ
専門 2　札幌デザイナー学院
専門 3　中央工学校
専門 4　フェリカ家づくり専門学校
専門 5　北海道芸術デザイン専門学校

高校 1　千葉県立市川工業高等学校

教育機関登録数　計 46 校

大学　（37 校）
短期大学（3 校）
専門学校（5 校）
高等学校（1 校）

懇親会場・大会会場　案内図

大会会場近辺　案内図

■懇親会場　案内

【懇親会場　Arcoba】

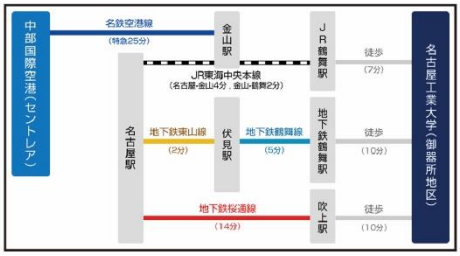
地下鉄　桜通線　（名古屋駅より今池・新瑞橋・徳重方面）　久屋大通駅下車　（桜通線ホーム前方（徳重方面）よりの階段を上がり北改札口へ）
　　名城線　（金山駅より右回り、栄・大曽根方面）　久屋大通駅下車　（北改札口から 2A 出口手前 A エレベーターにて地上へ出てすぐ）

■大会会場　案内

【名古屋工業大学】

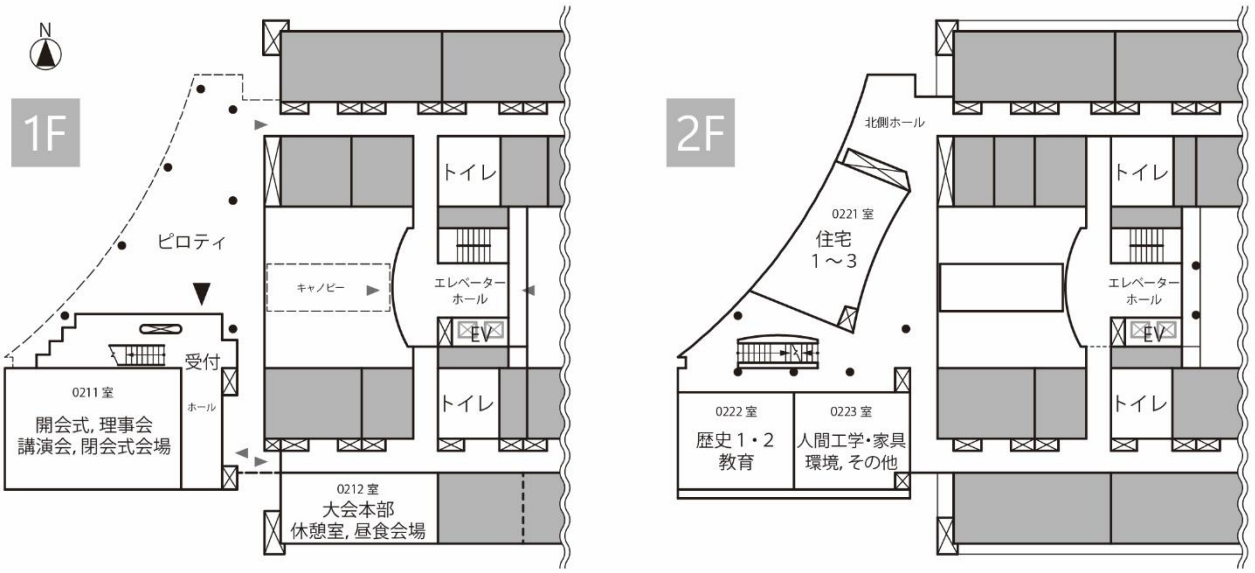
JR 東海　中央本線　　鶴舞駅下車　（名大病院口から東へ約 400m）
地下鉄　鶴舞線　（上小田井 ⟷ 赤池）　鶴舞駅下車　（4 番出口から東へ約 500m）
　　桜通線　（太閤通 ⟷ 徳重）　吹上駅下車　（5 番出口から西へ約 900m）
市バス　栄 18　（栄 ⟷ 妙見町）　名大病院下車　（東へ約 200m）

注 1：栄 18 は、市バスの系統番号
　2：バスの運行時間は、交通渋滞により大幅に遅れる可能性があるので注意してください



■名古屋工業大学キャンパスマップ

■研究発表会等 会場（名古屋工業大学 2 号館） 案内図



日本インテリア学会第 35 回大会(東海)ロゴマークについて

INTERIOR TOKAI
2023

椅子は「最小の建築物」と言われ、私たちのそばで暮らしを共にしている最も近い家具のひとつです。椅子には、使えば使うほど使用者の使いやすいように馴染んでいく柔らかさと、数十キロの重さを長年支え続けてくれる力強さがあります。今回の大会ロゴマークでは、椅子をモチーフにし、日々の感謝とこれからのインテリア業界の発展を祈念してデザインしました。

デザイン：野原舜一朗（愛知工業大学 中井研究室 4 年）